



ジオパーク、推進日記 101

再認定審査に向けた書類を作成し、

準備万端!

佐渡ジオパークの再認定に向けた現地審査が10月4日(金)～6日(日)に実施されます。この現地審査を迎えるにあたり、佐渡ジオパーク推進協議会では「再認定審査報告書」と「自己評価表」の2種類の書類を作成しました。

再認定審査報告書は、審査を受けるジオパークの特徴や前回の審査で指摘された課題に対応するため、どのように取り組んだかをまとめたものです。教育活動や持続可能なツーリズムなど、ジオパークで重視される「活動」が記されています。

自己評価表は、ジオパークとして取り組むべき項目を細かく示したもので、自分たちのジオパークが得意としているところ、苦手としているところを点数として客観的に見ることができます。

現地審査員はこれらの書類を事前に読んだ上で、佐渡へ審査に訪れます。

この2種類の書類は原案作成から始まり、部会員からの意見収集、そして臨時総会での確認と協議会全体で作上げてきました。

現地審査まで残りおよそ1カ月です。審査に向けての動きを佐渡ジオパーク推進協議会のホームページに公開していますので、ぜひご注目ください!



議論を重ね、報告書類を作り上げました!



探そうージオパーク！

「ジオパーク」を認識してもらえよう、さまざまな媒体を使って視認性アップを目指して活動をしています。

ラッピング自動販売機誕生！

佐渡ジオパークフォトコンテストの入賞作品でラッピングした自動販売機が誕生しました。この自動販売機は、佐渡島開発総合センター1階に設置してあります。



床面地図をご覧になりましたか？

両津港や小木港、マリンプラザ小木の床には、大きな地図があります。佐渡周辺の海底地形を反映した床面地図で、佐渡は押されることによって海底から持ち上がった「大地のしわ」であることが分かる地図です。



マリンプラザ小木にある床面地図

島内にはまだまだジオパークが隠れています。ぜひ探してみてください。

佐渡ジオパーク推進協議会

ホームページリニューアル

多くの方にジオパークについて知ってもらうため、ドローンで撮影した映像などのアーカイブを整理し、さまざまな情報を発信しています。



問 教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室

☎ 27-2162

再認定現地審査で3つの取り組みを説明！

佐渡ジオパークの再認定に向けた現地審査が10月4日～6日に行われ、3人の審査員が佐渡を訪れました。今回の再認定審査では、特に2年前に指摘された9つの課題について現地で確認が行われました。

9つの課題の一つに「ジオパーク」「世界農業遺産」「世界文化遺産への登録活動」の3つの取り組みに関する類似点と相違点の整理が挙げられています。課題に対する進捗状況を確認するため、世界農業遺産、

世界文化遺産への登録活動の担当者を交えた聞き取りが行われました。

聞き取りでは、3つの取り組みの類似点と相違点の整理をして、理解を深める話し合いを行ってきたことや、市民の皆さまに理解を深めていただくためのシンポジウムを開催したことなどを説明しました。

また、聞き取りのほかに、佐渡金銀山のガイダンス施設「きらりうむ佐渡」で、佐渡金銀山に関する展示の見学や、きらりうむ佐渡でのジオ



連携した取り組み状況を説明！



現地審査の感想を述べる審査員



きらりうむ佐渡での取り組み説明の様子

パーク講演会の様子の紹介、展示ポスターなどを見学していただき、連携した取り組みを行っていることをアピールしました。

審査員からは「関係者同士のコミュニケーションが持たれ、連携した動きが見られはじめています」といったコメントをいただきました。今回の現地審査の内容を踏まえて日本ジオパーク委員会では審査が行われます。審査結果は12月25日(水)に発表される予定です。審査結果の速報は、ジオパーク推進協議会ホームページでお知らせします。

⑤教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室

☎ 27 | 2162



再審査で新たな散策コース誕生！

10月に行われたジオパーク再認定審査では、ジオパークガイドやふれあいガイドがかかわって作成した両津港周辺のモデルコースを審査員と一緒に歩きました。

この両津コースは、佐渡ジオパークの拠点である佐渡島開発総合センターを起点に、両津港周辺を散策するコースで、両津が「砂州」の上に作られた町であることを実感することができます。砂州は水の力によって砂が動き、湾などを閉じるように形成されます。代表的なものに天橋立（京都府）などがあります。あまのはし

現在は家や商店が並び、地下の砂を見ることはできませんが、ジオガイドと一緒に歩くことで、ちよつとした道の起伏などに注目し、砂が動いて砂州が形成され、その上に人々が暮らしてきたことを実感することができます。

実際にコースを歩いた審査員からは「審査を忘れてしまうほど楽しかった。加茂湖や町並みを展望しながらのガイドがとても良かった」とコメントをいただきました。

地層や岩石を見ない両津コース、ぜひ歩いてみてはいかがでしょう。

⑤ 教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室 ☎ 27-2162



佐渡汽船ターミナルの展望室からの風景

〈両津コースの概要〉

① 佐渡汽船ターミナル8階展望室

佐渡の大地形を見よう！

② 両津若宮通り

砂が動いてできた大地を
実際に歩いてみよう！

③ 佐渡汽船ターミナル2階
ジオパーク情報コーナー

佐渡のなりたちと加茂湖、
両津のまちなみの歴史をお
さらい。

中部地域のジオパーク関係者が佐渡に来島！

昨年11月23日・24日の2日間、第7回日本ジオパーク中部ブロック大会が佐渡市を会場に開催され、佐渡を含めた10地域のジオパーク関係者56人が集いました。

中部ブロック大会は、比較的集まりやすい隣接した都道府県のジオパーク地域が年に一度集まる会で、各地の情報交換や経験の共有を重ねることで、ジオパーク活動に取り組む地域が互いの活動の発展を目指すことを目的としています。

1日目は、参加地域の活動を紹介する事例紹介とジオパークガイド向けに、ガイド力向上を目指す研修会が実施されました。

2日目は、参加者が2グループに分かれ、佐渡ジオパークガイド協会が考案したコースを巡り、コースに対する意見交換を行いました。

参加者からは「各地のガイドさんの話が聞けて良かった」「2日目にふるまわれた佐渡のおけさ柿の味が印象に残った」などといった意見をいただきました。

ジオパーク活動は自分の地域だけでなく、ほかの地域との交流を通じて自分たちの地域の課題をとらえ直

すことができるのも大きな強みの一つです。



中部ブロック大会に参加した皆さん

☎ 社会教育課ジオパーク推進室

27—2162

祝 佐渡ジオパーク再認定

ジオパーク、推進日記

106

昨年12月25日、佐渡ジオパークの審査結果が発表されました。ジオパークに携わる多くの方が見守る中、佐渡ジオパーク推進協議会の会長でもある三浦市長が日本ジオパーク委員会から認定されたとの電話連絡を受けました。

ジオパーク活動にとって「認定」は通過点です。今後4年間、ジオパークとしての活動を継続することができ、これまでと同じ活動ではなく、地域が発展し、多くの方が誇りを持って紹介できる佐渡ジオパークづくりを行っています。



認定の連絡を受ける三浦会長

ジオパークの審査って？

ジオパーク認定地域では、4年に一度再審査を受けます。日本ジオパークネットワークの一員としてふさわしい活動を行っているかどうか、確認する作業です。

佐渡ジオパークは、2017年に再審査を受け、条件付き再認定となりました。条件付き再認定の場合、2年後に再び再審査が実施されます。



佐渡ジオパーク

引き続きジオパーク推進活動へのご参加を 願います!



審査結果の発表に集まった皆さん

再審査ではどこが評価された?

「2017年の条件付き再認定の際に受けた指摘について、ほぼ改善が認められた。世界文化遺産登録に向けた取り組みおよび世界農業遺産との連携が進み、住民や民間企業のジオパークへの理解も広がった。交通拠点におけるジオパークの可視化や、これまで整備が進んでいなかった地区における活動の拡大を確認した。今後、島全体がジオパークであることを意識した拠点の充実化や情報発信、安定的な運営体制の維持が期待される。」との評価を、日本ジオパーク委員会からいただきました。

これからも続く、ジオパーク推進活動!

①新たなジオパーク活動の計画を作成します

日本ジオパーク委員会からの審査結果報告書をもとに新たなアクションプランを作成します。佐渡ジオパーク推進協議会のメンバーが中心となり、より良いジオパークの姿を求める活動がスタートします。



日本ジオパーク委員会からの審査結果報告書は、佐渡ジオパーク推進協議会ホームページをご覧ください。

②地域の見どころを紹介します

島内の見どころを地域説明会で紹介します。3月に小木半島エリア、4月以降も島内各エリアの見どころを紹介する予定ですので、皆さまのご参加をお願いします。

③市民講座に参加して、佐渡ジオパークの魅力をもっと知ろう

佐渡ジオパークの楽しさ、おもしろさを知ってもらうための市民講座を開催予定です。募集は春以降を予定しています。

再審査結果の一部を紹介！

昨年12月25日に日本ジオパーク委員会からジオパーク再認定審査の結果が発表され、その後、審査結果の詳細を記した報告書が届きました。今回はその一部を紹介します。

評価された点

- ・多様な専門分野の学芸員がおり、他分野の専門家とも連携しながら推進活動を行っていること
- ・観光や産業の関係者がジオパーク活動に関わるようになったこと
- ・市民講座や出前授業などの教育活動が続けられていること
- ・民間企業や団体が積極的にジオパークへ関わってきたこと
- ・ジオガイドによるモデルコース作りなど自主的な活動が続けられていること

今後の課題や改善すべき点

- ・ジオパークの見どころに設置する看板、ジオパークについて分かりやすく説明する案内冊子の整備
- ・ジオツアーなどに関するマーケティング分析
- ・年齢、興味関心、来島目的などが異なる多様な人へ合わせた情報提供
- ・ジオパーク、世界農業遺産、世界文化遺産登録活動の実質的な効果の創出

それぞれの課題に対する今後の取り組みは、随时お知らせしていきます。

報告書の全文は佐渡ジオパーク推進協議会ホームページでご覧いただけます。



問 社会教育課ジオパーク推進室

☎ 27-2162



両津ミニコースを案内するジオガイド



ジオパーク、推進日記

108

身近なジオパークの見どころを知ろう！

ジオパーク推進室では、島内にあるジオパークの特徴や価値を知ってもらい、保護保全への協力を呼びかけることを目的に地域説明会を行っています。

2月は「加茂湖・国中エリア」で第1回目の説明会を行いました。このエリアの主要なジオパークの見どころである加茂湖や八幡砂丘の成り立ち、人々の暮らしとの関係などを紹介しました。

また、同時に親子で楽しめる体験会を開催し、八幡砂丘付近で採れた貝殻を使った「貝殻アート作り」を行いました。

参加した皆さんは想像力を働かせて、多様な形をした貝殻を組み合わせて動物や昆虫、花などを作りました。

今後も、親子で参加できる体験会と併せて地域説明会を実施していきます。ジオパークから見た地域の見どころについて知識を深めてみませんか？



◎社会教育課ジオパーク推進室
☎ 27-2162



佐渡ジオパーク

加茂湖を一望できる ベストポイントに看板設置！

ジオパーク、推進日記 109

佐渡ジオパークでは皆さんにご紹介したい見どころ（サイト）を設定すると同時に、その場所の価値を説明する看板の整備を進めています。

今回は見どころの1つ「加茂湖」を説明する看板を新たに設置したのでご紹介します。

加茂湖は新潟県で一番大きい湖です。両津地区にある諏訪神社や樹崎神社などからは加茂湖の良い風景を見ることができますが、今回新たに看板を設置したのは、佐渡汽船両津港ターミナル最上階の展望室（朱鷺神社がある場所）です。

「なんでそんなところに…？」と思われるかもしれませんが。実はこの場所から加茂湖の全景を眺めることができるのです！佐渡汽船乗り場から近く便利なおから、佐渡ジオパークガイドの案内コースにも組み込まれている場所です。

皆さんも、この新しい看板のある場所に訪れて加茂湖の「なぜ？」を学んでみましょう！

☎社会教育課ジオパーク推進室 ☎27-2162



加茂湖一望の場所に看板を設置しました

トビシマカンゾウはヨーラメ



佐渡ジオパーク

ジオパーク、
推進日記 110

市の花であるトビシマカンゾウは、佐渡と山形県の飛島、酒田海岸だけに分布する珍しい植物です。鮮やかな黄色い花は、夏の訪れを感じさせてくれると共に、多くの魚が岸边に集まることを告げると言われています。

カンゾウが見られる海辺の地域では、この花をヨーラメと呼びます。ヨーは「魚」、ラメは「^{はら}なま^{なま}」の訛った言い方で、ヨーラメの咲く5～6月は卵を孕んだ魚が磯に産卵しにきているという漁の告知花として語り継がれてきました。漁村の古老は、「ヨーラメが咲くと海が生き返る。鯛は生き返り、村にやってくる。村に豊漁をもたらす」と言います。トビシマカンゾウの群生地で有名な大野亀は、黒い溶岩でできた佐渡で最も大きな一枚岩です。近くに寄ると大昔の火山活動の凄さ、大地を持ち上げた強大な力を感じられる場所です。



咲き誇るトビシマカンゾウと大野亀

このような大野亀に、なぜトビシマカンゾウの群落が形成されたのでしょうか？今ではあまり見られなくなりましたが、牛の放牧が大きく関係しています。牛たちはトビシマカンゾウをあまり好みませんでした。ヨーラメの群落は、黒い溶岩の大地と牛たちに食されなかったおかげで佐渡を象徴する大群生地となりました。